



## 雲の色は、どうして白いのと黒いのがあるの

### 雲には、もともと色がない

雲には、白い雲、黒い雲など色がついて見えますが、もともと雲には色がありません。雲は、白い色のつぶや、黒い色のつぶからできているのではなく、小さな水や氷のつぶが集まってできています。

### 太陽の光を反射している

雲が白く見えるのは、雲のつぶが、太陽の光をいろいろな方向に、反射させているからです。しかし、どの雲も同じ白さではありません。うすい雲や厚い雲、背の高い雲など、雲によって、白さがちがって見えます。

### 黒く見える雲

遠くにある積乱雲（かみなり雲、入道雲）を横から見ると、雲は太陽の光を受けて、白くかがやいて見えます。しかし、この雲の真下にいる人が見たときには、雲は、真っ黒に見えます。

厚い雲を下から見ると、雲は太陽の光をあまり反射していません。それよりも、厚い雲が、太陽の光をさえぎっています。それで、雲は黒く見えます。

空の低いところでは、気温があまり低くないので、空気中の水蒸気の量が多く、むくむくとした、厚い雲ができやすくなっています。ふつう、空の低いところで見られる厚い雲は、黒く見えます。（監修・村山 貢司）

